

JWF ファンド 2018 実施報告書

2019 年 4 月

特定非営利活動法人日本水フォーラム



目次

1. JWF ファンドとは	3
2. 2018 年度実施プロジェクト	4
(1) 2 つの学校における、VIP トイレ 2 基の建設と良い衛生習慣の教育 (シエラレオネ)	4
(2) バンペン村での水供給の改善 (ラオス)	8
(3) マレウレ地域における掘抜き井戸の修繕プロジェクト (マラウイ)	11
(4) パランクワリ地域での井戸の建設 (マラウイ) 報告書未提出	15
(5) キワニ地域での湧水保護と水と衛生習慣に関する啓発 (ウガンダ)	16
(6) 湧水設備の修繕と衛生習慣の向上、女性利用者のトレーニング (ウガンダ)	19
(7) 命を救うためのングマ市場のトイレ建設 (コンゴ民主共和国)	23

「JWF ファンド 2018 実施報告書」は、2018 年に JWF ファンドの資金支援により、現地活動を行った現地団体からの完了報告資料を基に作成しています。

日本水フォーラムは、現地の草の根団体からのプロジェクト提案書に基づいて活動内容を審査し、採用した団体へ活動資金の助成を行っています。現地活動は、現地団体によって実施されており、日本水フォーラムはその実施には携わっておりません。

本紙掲載の内容について引用・転載をご希望の際は、下記連絡先までご連絡ください。

発行元：

特定非営利活動法人日本水フォーラム

jwffund@waterforum.jp

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第 2 ビル 6 階

TEL: 03-5645-8040 FAX: 03-5645-8041

1. JWF ファンドとは

概要

JWF ファンドは、2005（平成 17）年に日本水フォーラムが設立し、独自に運営する助成基金です。発展途上国の水問題解決のために草の根活動を行っている団体を対象に、毎年プロジェクトを公募し、採択された団体には1プロジェクトあたり 1,000US ドルを上限とした資金を助成しています。この基金は、日本水フォーラムの会費や、一般の方から Charity for Water に寄せられた寄付等により運営されています。

JWF ファンドは、1 プロジェクトあたりの支援金額の上限を 1,000US ドルとすること、草の根活動を実施している現地団体の活動を支援すること、現地に適した技術と方法を用いて実施することを基本原則としています。現地活動の実施を現地団体に任せることにより、日本水フォーラムが直接その実施に携わる場合に発生する経費を削減し、成果を得ることを大きな特徴としています。

この基金の助成により、過去 14 年間で 170 件のプロジェクトを支援し、アジア太平洋、アフリカ、中央アメリカ、南アメリカでの受益者数は 20 万人を超えました。

JWF ファンド 2018 は、会員の皆様や寄付者の皆様の活動へのご理解とご支援により実施することができました。また、現地団体や住民の理解とコミットメントにより完了することができました。関係者の皆様に、お礼申し上げます。

JWF ファンド 2005～2018 の支援実績

- ◆ 支援件数：170 件
 - ◆ 総支援額：168,287 US ドル
 - ◆ 総受益者数：205,701 人
 - ◆ 水供給設備数：484 基
 - ◆ 衛生設備数：401 基
 - ◆ 啓発活動数：422 回
- （2019 年 4 月現在）

2. 2018 年度実施プロジェクト

JWF ファンド 2018 には、41 カ国から 408 件の応募がありました。

日本水フォーラムによる選考の結果、シエラレオネ 1 件、ラオス 1 件、マラウイ 2 件、ウガンダ 2 件、コンゴ民主共和国 1 件の 5 か国 7 件に対し、支援を実施しました。

(1) 2 つの学校における、VIP トイレ 2 基の建設と良い衛生習慣の教育（シエラレオネ）

報告者：EEHRSL, Mr. Michael Luseni

- 実施団体：Economic Empowerment and Human Rights Sierra Leone（EEHRSL）（#130）
- プロジェクト名：2 つのコミュニティスクールにおける、VIP トイレ 2 基の建設と良い衛生習慣の教育（シエラレオネ）
- 実施国・地域：シエラレオネ、ボンバリ地区
- 実施期間：2018 年 10 月～2019 年 3 月
- 受益者数：582 人（児童・生徒 568 人、教師 14 人）
- 実施費用：2,154 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者の負担 300 ドル、EEHRSL の負担 854 ドル）



実施地の課題

シエラレオネのブロンカ村とログボンコ村にあるコミュニティスクールでは、衛生設備（トイレ）と衛生教育の不足が大きな課題となっている。対象の 2 つの学校には 568 人の児童が通っているが、この学校には衛生設備がない。児童や生徒たちは校舎の裏で野外排泄をし、その糞便を犬やアヒル、鳥が餌としている。女子たちは野外排泄に抵抗があり学校に行きたがらない。このことが、多くの女子たちの中退につながっている。

EEHRSL による近年の調査と地区保健管理チームの推定によると、シエラレオネ国内で 7 人に 1 人が野外排泄をしており、その 75%が貧しい農村部で暮らしている。糞便による水

源の汚染も問題であり、汚染された飲み水がウイルス性胃腸炎やウイルス性肝炎、腸チフス、コレラの流行、下痢症といった病気の原因になっている。結果として、学校の児童や地域住民がその危険にさらされている。

プロジェクト内容

- ◆ 地域関係者との会議の実施
- ◆ VIP トイレ¹2 基の建設と手洗い設備 2 基の設置
- ◆ 良い衛生習慣に関するトレーニング 2 回の実施
- ◆ 衛生キャンペーン 3 回の実施
- ◆ 建設した設備の維持管理に関する会議 2 回の実施

実施概要

プロジェクト開始にあたり、村長や権力者、若者と女性のリーダー、学校責任者、地域の議員を交えた会議が行われ、地域の協力体制が整えられた。トイレの建設には、学校責任者や地域住民が積極的に参加し、労働力や材料を提供した。また、学校の協力のもと、対象の学校 2 校で教師と児童・生徒を対象に良い衛生習慣に関するトレーニングを実施した。参加した教師と児童・生徒は、健康と衛生に関する行動を毎日学校で行うことを約束した。今回のプロジェクトで対象となっていない近隣 6 地域に対して、地域関係者の協力を得て野外排泄の根絶と適切な衛生設備の利用に関するキャンペーンを行った。

現場からの声

- ◆ Alusine Bangura さん（27 歳、男性、学校の校長）

この学校は密集した林に囲まれ、地域によって運営されています。政府やその他団体からの支援はありません。保護者は貧しく、学校やトイレの建設費用を負担してもらうことは難しかったので、EEHRSL によってトイレが建設されてとても嬉しいです。

（プロジェクトによる）建設活動が始まった際、ほかの学校の校長たちから、彼らの学校のトイレや井戸の建設、学校の修理を EEHRSL に支援してもらえるよう伝えてほしいと相談されました。以前は、近所の家のお朽化したトイレを使ったり、急いでいるときは茂みで野外排泄をしたりしていました。このために服が汚れて礼拝が出来ないこともありました。今は私や教師、児童たちも老朽化したトイレを使う必要がなくなり、きちんとしたトイレを使うことが出来ます。
- ◆ Alimamy S. Kamara さん（12 歳、男性、小学校の児童）

日本水フォーラムの支援に感謝します。これまでは用を足しに外に出なければならず、危険な動物に襲われたり病気にかかったりしていました。今は外に行く必要がなくなり、たくさんの病気からも解放されました。両親は、以前は病気の診察にお金を費やしていましたが、もうその必要はありません。今は良いトイレと手洗い設備を使用しています。
- ◆ Sento Kamara さん（16 歳、女性、学校の生徒）

私たちの学校にはトイレがなく、毎日校舎の後ろの林で用を足していました。急い

¹ VIP トイレ：Ventilated Improved Pit Latrine の略称。臭気及びハエの発生を防止するために換気管を設置した衛生設備。

でいるときは、そこに誰かが居るかを考えている余裕はなく、何度も恥ずかしい思いをして泣いていました。

今はきちんとした VIP トイレがあるので、そのようなことはなくなりました。トイレがあることで、地獄から天国に来たような気持ちでとても嬉しいです。女子たちが抱えていた月経の問題も解決しました。日本水フォーラムの支援を通じ、トイレを建設し、そして衛生習慣に関するトレーニングを行ってくれた EEHRSL に感謝します。

プロジェクト成功の工夫

- ・ 地域によるコミットメントが鍵であった。対象地域には、野外排泄を止めて VIP トイレを利用するという、新しい衛生習慣を受け入れる風土があった。
- ・ 女子児童・生徒の保護者たちが、VIP トイレの建設に参加したこと。保護者達が、女子児童・生徒に野外排泄をしないように伝えたこと。
- ・ 対象地域の行政機関が、環境負担を減らすことに協力の意向を示したこと。

プロジェクトの課題

- ・ 雨季による天候の影響で、地域住民に資材を寄付してもらわなければならなかったことが、一番の課題であった。
- ・ 新しい政策により、インフレ率が上がり、建設用資材の値段が上がったこと。
- ・ 実施地周辺の地域からも、同じ VIP トイレを学校に建設して欲しいという要望と圧力が集中したこと。
- ・ プロジェクトの対象地ではなかったため、近隣地域からの衛生キャンペーンへの参加が少なかったこと。

実施前の様子



対象の小学校の校舎と児童たち



学校の敷地内で野外排泄をしている

実施の様子



地域関係者との会議



VIP トイレの建設

実施後のようす



完成した VIP トイレと生徒たち



手洗いをする生徒

(2) バンペン村での水供給の改善（ラオス）

報告者：BPE, Mr. Daophachanh Phetsayarat

- 実施団体：Ban Paen Environmental Protection and Development Group (BPE) (#133)
- プロジェクト名：バンペン村での水供給の改善
- 実施国・地域：ラオス、シエンクワン県
- 実施期間：2018 年 10 月～2019 年 2 月
- 受益者数：189 人（女性 65 人、男性 50 人、子ども 74 人）
- 実施費用：4,000 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者 1,500 ドル、実施団体 1,500 ドル）



実施地の課題

山岳民族を含む 125 世帯 600 人以上が暮らすバンペン村では、頻繁に水不足が起きている。水不足解決のため、2010 年には USAID（アメリカ合衆国国際開発庁）と UNDP（国際連合開発計画）からの資金協力で、3 つの給水プロジェクトが実施された。しかし、村の人口が増えている一方で、気候変動の影響によって給水プロジェクトで設置したパイプラインから得られる水の量は減っている。また、配管が何者かによって破壊されたため、給水ができなくなっている。

その結果、2015 年以降、住民の大半と村の学校は水不足に苦しんでいる。現在、モンスーンの時期でさえ得られる水の量はわずかである。水不足は村の人々の生活に影響しており、幼い女の子でさえ家族のために遠くの井戸まで水を汲みに行かなければならない。さらに、学校に通う子どもたちは、家から学校のトイレ清掃用の水を持っていかなければならない。

プロジェクト内容

- ◆ 既存の貯水池 1 か所の拡張
- ◆ 新規の小規模貯水池 1 か所の建設
- ◆ 給水配管の修理と埋設
- ◆ 水管理と給水に関する新しいルールの設置

実施概要

プロジェクト内容に示す 4 つの事項を実施したことにより、村の小学校では飲み水を、村のコミュニティホールと村の市場では、公共トイレ用の水を得られるようになった。

既存の設備の改修と拡張を予定していたため、JWF ファンドに応募する前に準備活動を行った。準備活動では、村の委員会との協議やコミュニティとの相談、計画づくりを行い、JWF ファンドへの申請を行った。

資金支援が決まった後は、実施計画の策定に注力した。住民との相談、労働組織の構成、部材やその他支援物資（食事や道具など）の調達、現場調査と地図作り、予算計画を行った。

計画に基づき、既存の既貯水池 1 か所の拡張、新規の小規模貯水池 1 か所の建設、給水配管の修理と埋設、水管理と給水に関する新しいルールの設置を行った。

今後、配管の修繕や、ルールの徹底、配管や貯水池の破壊行為の防止等に努めていく。

現場からの声

- ◆ Phomma Dalasaeng さん（70 歳、男性）
家庭用だけではなく菜園用や家畜用の水も不足していました。JWF に感謝します。
- ◆ Seangphone Lattana さん（59 歳、女性）
このプロジェクトのおかげで、料理や洗濯のための水を汲みにいく必要がなくなりました。
- ◆ Khamvixay Sounisonh さん（36 歳、男性）
家庭用の水に加え、ナマズ養殖のための水も得られるようになり、ナマズを買う必要がなくなりました。JWF ありがとう。

プロジェクト成功の工夫

地元行政機関の協力を得ながら十分な計画を立て実施できたこと。住民が工事のための労働を惜しみなく提供し、無償にも関わらず真面目に協力したこと。対象とするグループや住民が、建設に必要な材料や労働力を提供したこと。JWF の資金支援があったこと。

プロジェクト実施時の課題

資金の制約があったことと、いかに地域の協力を得るかということ。ゼロからプロジェクトを計画し実施するには、道徳的コミットメントを得ること、自分たちの頭で考えることが重要だった。「実際に現場を訪れ水質を確認できない JWF が我々を信じて、プロジェクトを始めるための資金を提供してくれた。もしこれがなければ、我々はプロジェクトを完了することはできなかった。」というスローガンを掲げ、プロジェクトを動かした。

実施前の様子



水源として使用する貯水池



誰かに壊された給水配管

実施中の様子



新規の小規模貯水池の建設



給水配管の修理と埋設

実施後の様子



プロジェクトにより配管からの水量が増えた

(3) マレウレ地域における掘抜き井戸の修繕プロジェクト（マラウイ）

報告者：CCCEM, Ms. Rhoda Mollande

- 実施団体：Centre for Climate Change and Environment Management (CCCEM) (#172)
- プロジェクト名：マレウレ地域における掘抜き井戸の修繕プロジェクト
- 実施国・地域：マラウイ、ブランタイヤ県
- 実施期間：2018 年 10 月～2019 年 2 月
- 受益者数：1,350 人（女性 350 人、男性 300 人、子ども 700 人）
- 費用：1,543 ドル（JWF ファンド 996 ドル、受益者 249 ドル、実施団体 298 ドル）



実施地の課題

マレウレ地域には、住民共用の井戸が 5 つあるが、そのうち 3 つからは水が出なくなっている。井戸を開けてその原因を調べたところ、気候変動の影響で乾期の地下水位が下がっている事が分かった。2,000 人以上の住民が残りの 2 つの井戸を共同利用しており、順番待ちに多くの時間を費やされている。対象のチヨンガ村に住む住民たちは、列に並ぶことを諦めて 5 キロ離れた場所まで水を汲みに行っている。

プロジェクト内容

- ◆ 地域住民の動員
- ◆ 既存井戸 2 基の修繕
- ◆ 井戸の排水溝と周辺設備・洗濯場の修繕
- ◆ 井戸管理委員会の設立
- ◆ 維持管理に関するトレーニングの実施
- ◆ 水と衛生と資金調達に関するトレーニングの実施
- ◆ 水質検査の実施

実施概要

機能していなかった既存井戸 2 基を修繕することにより、水に関する課題を減らすことができた。プロジェクトでは、井戸の修繕、排水溝等の井戸周辺設備の清掃と管理、設備の維持管理や公衆衛生、資金や資源の調達に関する住民の能力開発を行った。

初めに、県庁の水担当官とコミュニティ開発官に面会し、プロジェクトについての説明を行った。その後、村開発委員会、地域開発委員会、水利用組合のメンバーと村の住民に会い、プロジェクトについて周知した。また、村のリーダーたちにプロジェクト実施に必要な事項をリスト化して示し、村が負担できることや管理できることを聞き、プロジェクト実施の方法についても意見を聞いた。これらの工程により、地元で調達できる資源が明確になり、プロジェクト実行委員会のメンバーが選定された。

実行委員会は、資源の確保、建設者や技術者の雇用、部品の調達を担った。透明性と説明責任を確保するため、部材の購入は CCCEM の職員と地域住民が共同で行った。井戸の修繕は熟練の技術者によって行われた。既存井戸は長期間利用されていなかったが、修繕後の水質検査で飲み水に適していると確認できた。活動状況の確認は毎日村人が行い、すべての工事が終わった段階で村の住民を全員集め、井戸管理委員会のメンバーを選出した。各井戸に 5 人（男性 2 人、女性 3 人）、計 10 名の委員会メンバーは、CCCEM と政府職員から、井戸の維持管理や公衆衛生、資金や資源の調達に関してトレーニングを受け、設備の管理責任を持つことになった。また、井戸の簡単な修理担当として、男子学生と女子学生が各 1 名ずつ選ばれ、修理方法について技術者から学んだ。

村人たちの合意を得て、各利用世帯から毎月 MK100 を利用料として徴収することとした。井戸 1 基につき、毎月 MK8,100 を徴収できる予定で、井戸の修理費用に充てる。

プロジェクト完了後、修繕した井戸 2 基をコミュニティに引き渡し、実行委員会を解散し、モニタリングとフォローアップを政府の担当部門に移譲した。

現場からの声

◆ Jofrey Chopi さん（37 歳、男性）

長年、地域の課題であった飲み水の確保が JWF と CCCEM の支援によって実現したことに感謝します。今後住民とともに井戸が長く使えるよう、大切にいく。今回私たちが得た恩恵を、他の人びとも受けられるよう祈ります。

◆ Etta Makwiti さん（53 歳、女性）

井戸管理委員会の女性議長を務めています。飲み水が不足し、経済活動よりずっと多くの時間を水汲みに費やしていた農村の人びとに対し、支援頂いたことを感謝します。現在は、水汲みにかかる時間は 2 時間だけで済み、残りの時間は近くの小学校で落花生やキャッサバを売る小さなビジネスを行うことができるようになりました。

◆ Femia Macheza さん（42 歳、女性）

このコミュニティの村開発委員会の議長です。ご支援頂いた皆さんは、おそらく都市に住んでいて、パイプラインで送られてくる水を利用し、ご自身のことだけ考えて生活することもできるでしょう。そんな中、離れた土地の人びとに想いをはせ、近場で飲み水が得られるようにと支援して下さったことに、心から感謝します。

プロジェクト成功の鍵

マレウレ地域の人びとの協力が得られたこと。地域の人びとはプロジェクトを好意的に受け入れ、彼らにできることは自ら行った。CCCEM は、プロジェクト形成や統率に専念した。JWF の資金支援は、それを実現させるのに欠かせなかった。これらどれかひとつでも欠けていたら、プロジェクトは成功しなかった。プロジェクト活動の実施において、これら関係者間の良好なコミュニケーションが、円滑な調整を促進した。

プロジェクト実施時の課題

マレウレの近隣地域から、それらの地域の井戸を修繕してほしいとの依頼が相次いだ一方、資金の制約からその依頼に応えられなかったこと。ブランタイヤ県のマレウレ地域とリラングウェ地域で 1 つずつ井戸を修繕し、共同利用したいとの意見もあった。今後新たに資金を確保できた場合には、他のコミュニティでも井戸の修繕を行いたい。

他には、修繕のための部材を運搬することや、労働力を確保することが大変だった。運搬費用を削減するため、部材を一度に全て運ぶ等の工夫をした。

実施前の様子



水を汲むために既存井戸へ集まる住民たち



修繕予定の既存井戸

実施中の様子



井戸の修繕



井戸の排水溝と周辺、洗濯場の修繕

実施後の様子



修繕した井戸と洗濯場、排水溝



修繕成した井戸を使う女性

(4) パランクワリ地域での井戸の建設（マラウイ） 報告書未提出

完了報告書未提出につき、提案書における活動概要のみ記載。

JWF ファンドからは、活動費用として 1,000 ドルを支援した。

- 実施団体：Friends of Compassion (Fricom) (#372)
- プロジェクト名：パランクワリ地域での井戸の建設
- 実施国・地域：マラウイ、ドーワ県
- 実施期間：2018 年 10 月～2019 年 2 月（予定）
- 受益者数：1,051 人（女性 288 人、男性 353 人、子ども 410 人）（予定）
- 費用:2,950.3 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者 710 ドル、実施団体 1,240.3 ドル）（予定）



実施地の課題

パランクワリ地域にあるピンデンオンベ村とカウォラムワジ村の水問題は、村の中に水源がなく、現在利用している水源が村から遠く離れていることである。村人たちは約 1.5 キロ離れた池に毎日水を汲みに行き、その水を飲み水や料理、洗濯、沐浴に使用している。このような状況が、村の人々の健康や社会経済的な面に影響を及ぼしている。

健康の面では、池の水を飲み水として使用する大人や子どもたちが病気にかかっており、年間でこの地域の総人口の 25%が汚染された水に起因する病気にかかっている。また、社会経済の面では、毎年の収入の 15%が家族の病気の治療に費やされている。また、女性や子どもたちは遠くまで水を汲みに行くことに 1 日あたり約 2.5 時間を費やしており、子どもたちの登校率に悪影響を及ぼしている。

実施前の様子

	
住民が水源として利用する池	池から水を汲む子ども

(5) キワニ地域での湧水保護と水と衛生習慣に関する啓発（ウガンダ）

報告者：KHC, Dr. Nakamatte Florence

- 実施団体：Kiwany Health Centre-Group (KHC)（#029）
- プロジェクト名：キワニ地域での湧水保護と水と衛生習慣に関する啓発
- 実施国・地域：ウガンダ、イガンガ県
- 実施期間：2018 年 10 月～2019 年 2 月
- 受益者数：3,400 人（女性 1,200 人、男性 500 人、子ども 1,700 人）
- 費用：1,400 ドル（JWF ファンド 790 ドル、受益者 230 ドル、実施団体 380 ドル）



実施地の課題

キワニ村の住民たちは、村の外にあるため池の水を飲み水やその他生活用水に使用している。しかし、このため池は保護されていないため汚染されやすく、安全でない。また、2018 年 4 月に実施した訪問調査では、村の中にいくつかのトイレや水浴び小屋、ゴミ捨て場といった衛生設備が建設され、住民が利用していたが、手洗い場はなかった。キワニ地域保健センターの調査によると、この村に住む住民の 6 人に 1 人が下痢症または皮膚病に、26 人に 1 人が眼の感染症にかかっている。

プロジェクト内容

- ◆ 関係者を交えた会議
- ◆ プロジェクト実行管理チームの設立
- ◆ ため池保護設備 1 基の建設
- ◆ 地域住民への水と衛生に関する啓発活動 6 回の実施
- ◆ 地域住民への病気の予防と自宅での衛生習慣に関するトレーニングの実施（2 日間）
- ◆ 利用者組合の設立
- ◆ 水質検査の実施

実施概要

対象地域の既存のため池は、保護設備を建設したことにより、安全で持続可能な水源となった。村の有力者によるプロジェクト実行管理チームがプロジェクトの進捗や材料の管理、活動の監督を担った。プロジェクト完了後は、設備の維持管理を利用者組合が引き継いだ。また、水と衛生に関する意識啓発を目的に、地域の関係者を交えた会議や、地域住民へのトレーニングを行った。これにより、プロジェクト実施前と比べて、家庭でのトイレの利用や手洗いといった習慣や、水と衛生に対する変化が見られた。プロジェクトの影響として、キワニ保健所の月例報告でも示されているように、腸の感染症や汚染された水に起因する病気の発生が減った。

現場からの声

- ◆ Babirye Aisha さん（29 歳、女性）
地域の湧水保護設備に対する日本水フォーラムの支援に感謝します。
- ◆ Nangobi Masitulla さん（14 歳、女性）
きれいでない水を利用し、遠くまで安全な水を探しに行っていた私たちを助けてくれて、KHC ありがとう。
- ◆ Isabirye Peter さん（48 歳、男性）
この支援に感謝します。私の家族は下痢症から安全になりました。プロジェクト成功のために携わったすべての人に、神のご加護がありますように。

プロジェクト成功の工夫

チームワークと地域住民の参画、適切な資金管理が、プロジェクト成功の大きな要因だった。プロジェクトチームは、様々な関係者（公衆衛生の専門家、地域、水に関するエンジニア、天然資源担当官）へプロジェクト実施について継続的に相談した。

プロジェクト実施時の課題

物価の変動や地域からの高い期待、限られた資金でプロジェクトを完了することは、KHC やプロジェクトチームが経験したことがないものであった。これら課題に対応することが大変だった。

実施前の様子



住民が水源として利用するため池

実施の様子



湧水保護設備の建設



小学校での水と衛生に関する啓発活動

実施後の様子



地域住民への水と衛生に関する啓発活動



完成した湧水保護設備と住民たち

(6) 湧水設備の修繕と衛生習慣の向上、女性利用者のトレーニング(ウガンダ)

報告者 : CUWEDE, Mr. James Kumakech

- 実施団体 : Community Uplift and Welfare Development (CUWEDE) (#053)
- プロジェクト名 : 湧水設備の修繕と衛生習慣の向上、女性利用者のトレーニング
- 実施国・地域 : ウガンダ、ネビ県
- 実施期間 : 2018 年 10 月～2019 年 3 月
- 受益者数 : 1,735 人 (女性 625 人、男性 960 人、子ども 150 人)
- 費用 : 1,985 ドル (JWF ファンド 1,000 ドル、受益者 400 ドル、実施団体 585 ドル)



実施地の課題

セントラル村とオリヤング村の住民は、アリモとアメレンジュ・アヴブにある保護された湧水を飲み水や料理、洗濯といった生活用水の水源として利用しているが、保護設備は荒廃し、泥だらけで錆びてしまっている。さらに、利用者による維持管理がきちんとされていないため、蚊の繁殖によるマラリア等の病気や、その他の汚染された水に起因する病気が発生する可能性が高まっている。

直近の 4 年間、セントラル村とオリヤング村では、特に赤痢や腸チフス、B 型肝炎、下痢症、アメーバ感染症、コレラといった汚染された水に起因する病気が過去最多で発生している。

プロジェクト内容

- ◆ 既存の湧水保護設備 2 か所の修繕
- ◆ 設備利用者への意識啓発活動 4 回の実施
- ◆ 維持管理計画の策定
- ◆ 水と衛生に関するトレーニングの実施
- ◆ 水質検査の実施

実施概要

アリモとアメレンジュ・アヴブにある湧水保護設備 2 基の修復、井戸の利用者へ衛生に関する啓発活動 4 回の実施、女性リーダー30 名への衛生と維持管理に関するトレーニングの実施、水質検査の実施を行った。

啓発活動では、衛生習慣、汚染された水に起因する病気の流行、湧水の保護、維持管理の効果的な運営とガイドラインの作成について伝えられた。その結果、9 人のメンバーから構成される水と衛生委員会が設立された。毎日の定期的な湧水保護設備の観察と維持、ガイドラインを守っているかの確認を行う担当者が、1 名ずつ湧水保護設備に割り当てられた。湧水保護設備で 20L の水を 1 分半で汲めるようになり、給水所の混雑や争いが減少した。得られる水の質も大幅に向上し、安全な水を利用できるようになった。

現場からの声

- ◆ Opio Odongo さん（42 歳、男性、アリモにある湧水保護設備の利用者）

私はここに 42 年住んでいます。アリモの水は昔から臭くて汚れていましたが、それでも使い続ける以外に方法はありませんでした。私は CUWEDE と JWF がアリモの湧水保護設備をよりよく健全にしてくれて、とても嬉しく思います。

誰もこの設備の水と公衆衛生についていい加減にすることがないよう、必要なことは何でもします。もしガイドラインを守らない人がいたら、厳しく処罰します。今はこの水はとても甘く冷たいので、飲むのが楽しみです。
- ◆ Akumu Okwerjok さん（36 歳、女性、アメレンジュ・アヴブにある湧水保護設備の利用者）

私たちの給水場がきれいで健全になり、丈夫になりました。少なくとも 30 年はきれいな水を得られ、孫たちも使うことができるのでとても嬉しいです。私たちを助けてくれた CUWEDE と JWF に感謝します。
- ◆ Agnes Ochan さん（34 歳、女性、トレーニングの参加者）

私が参加した、水の維持と衛生管理に関するトレーニングは、楽しかったです。現在は、これまで適切な衛生環境を確保するための多くのことを実施してきておらず、それが水汲み場と自宅の衛生環境が良くない原因となっていたことを理解しています。

今後は、水汲み用の容器はきれいにすることを心掛け、女性や子どもたちに良い衛生習慣を促進していく人になるよう伝え続けていくことを約束します。このような活動は、私たちが病気にならず健康でいられることにつながるでしょう。

プロジェクト成功の工夫

- ・ JWF からの資金助成、実施地域の住民、CUWEDE からの寄付を得られたこと。実施地域の住民たちは、より早く作業が進むように、食事や飲み物をプロジェクトのボランティアや職人たちに提供することを約束した。CUWEDE は、設備建設の費用が計画調整により追加で必要となった場合に、追加資金の支援をすることを約束した。
- ・ プロジェクトの変更に沿い、土地の所有者が地下にある配管の延長を許可するなどの意欲的な協力を得られたこと。
- ・ 地域住民やリーダー、サブ・カウンティのリーダー等から、労働者の提供や技術指導、動員等の積極的な協力を得られたこと。修繕した設備の定期的なモニタリングは、サブ・カウンティの保健補佐が行う。

プロジェクト実施時の課題

- ・ 設備の修繕のみを行った場合、きれいで安全な水を確保するという目的が達成できない可能性があった。そこで、当初計画していた湧水設備の修繕を、設備全体の建設に変更した。このため、追加予算が必要となった。この予算を確保するために、資金調達に時間を要した。
- ・ 以前の湧水保護設備の水質が良くなかったことから、適切な水を得られるようになるのか疑う住民もあり、中にはプロジェクトに参加することや協力することをためらう住民もいた。アレメンジュ・アヴブの湧水が、彼らの満足する基準に沿って建設されることは、これが初めてだった。残りの地域住民たちは感謝し、2基目のアリモにある湧水保護設備を建設することに積極的になった。

実施前の様子



アリモにある給水設備



アメレンジュ・アヴブにある給水設備

実施の様子



設備利用者への意識啓発活動



アメレンジュ・アヴブにある給水設備の修繕

実施後の様子



修繕されたアリモの給水設備から水を汲む住民



修繕されたアメレンジュ・アヴブの給水設備から水を汲む住民

(7) 命を救うためのングマ市場のトイレ建設（コンゴ民主共和国）

報告者：COJEPAD, Mr. Bienvenu ELOCO

- 実施団体：Congrès de Jeunes pour la Paix et le Développement (COJEPAD) (#233)
- プロジェクト名：命を救うためのングマ市場のトイレ建設
- 実施国・地域：コンゴ民主共和国、南キヴ州
- 実施期間：2018年10月～2019年2月
- 受益者数：316人（女性120人、男性111人、子ども85人）
- 費用：1,497ドル（JWFファンド1,000ドル、受益者150ドル、実施団体347ドル）



実施地の課題

隔週で開かれるングマ市場は、周辺の住民が唯一食料を調達できる場である。この市場にはトイレがないため、販売者や利用者は、茂みで用を足している。食物を使う環境にも関わらず、手洗い場はない。無秩序な野外排泄により、水源だけでなく商品も汚染されるうえに、コレラや腸チフス、アメーバ赤痢などの病気が報告されている。

保健所の2016年の報告書によると、ングマ村は汚染された水に起因する病気が多く報告されている村の一つである。49%の世帯がコレラ発生の影響を受け、全世帯が何かしらの汚染された水に起因する病気にかかっている。また、この市場へ頻繁に訪れる周辺の住民もまた、影響を受けている。

実施概要

ングマ村の各組織の代表者計 71 名を集めて行った戦略会議では、プロジェクトの目的、期待する結果、活動事項、受益者や、実施方法について説明を行った。また、トイレ管理委員会の設置、建設作業や工事担当者の雇用、関係者からの協力と参加の取り付けを行った。

その後、汚水槽用の穴の掘削、トイレ 2 基の建設、手洗い設備の導入を行った。建設や工事は、COJEPAD のスタッフが監督した。トイレには洗浄用の水を貯めておくためのバケツを設置した。また、設立されたトイレ管理委員会には設備の維持管理に必要な道具を提供したほか、メンバーには手洗いとトイレの維持管理方法に関するトレーニングを各 1 回行った。手洗いのトレーニングは、フィジ地区の疫学者 Emile MAJALIWA 氏がファシリテーターを務めた。委員会メンバーは、市場のトイレ利用者や村の住民に対し、衛生についての指導を開始している。

2019 年 1 月、102 人を対象に行った住民インタビューでは、70%の住民が、プロジェクト後に村内での争いごとが減った、野外排泄の減少や公衆衛生の改善により病気への罹患率が減少したと回答している。

プロジェクト内容

- ◆ 地域住民を交えた会議の実施
- ◆ ピットラトリン²2 基の建設
- ◆ 手洗い場 2 か所の建設
- ◆ 維持管理委員会の設立
- ◆ 手洗いと維持管理に関するトレーニングを各 1 回実施
- ◆ 野外排泄場所の清掃

現場からの声

- ◆ IDDI MKONGO wa Thomas さん（82 歳、男性）
私たちの健康に被害をもたらしていた問題について、解決の支援をしてくれた COJEPAD と JWF に感謝します。
- ◆ MWANGAZA DJUMA さん（41 歳、女性）
啓発活動に感謝します。私たちが今まで、商品と一緒に病気を売っていたのだと気が付きました。教えてもらったことを実践します。
- ◆ IKYENGELI MUNGAL さん（32 歳、男性、村のチーフ）
我々の村は遠隔地にあり、NGO や政府の活動がほとんど何ともありません。COJEPAD と JWF が NGUMA 村の人びとの苦しみを理解してくれたことには感謝しかありません。しかし、公衆衛生の課題がすべて解決されたわけではなく、毎日課題に直面しています。それらにも目を向けて頂けるとありがたいです。

プロジェクト成功の鍵

水に関する問題が、地域の環境や保健の問題と深く結びついていたため、受益者からの理解や協力が迅速に得られた。受益者はプロジェクトに積極的に参加し、オーナーシップ

² ピットラトリン：落とし込み式の簡易トイレ。

を持った。地元で労働力を確保できたことや、プロジェクトの各段階に受益者が参加することで透明性を確保できたことも、成功の鍵といえる。

プロジェクト実施時の課題

選挙プロセスにより起きた緊張状態と、国内反政府武装勢力に対するコンゴ民主共和国政府軍（FARDC）の軍事作戦による情勢の不安定さが一番の課題だった。

武力対立により、2019年3月9日、トイレ建設の監督者であった COJEPAD のスタッフ1名が亡くなった。プロジェクトは厳しい警備環境の下行われた。

安全上の理由から、部材調達地と NGUMA から BARAKA や UVIRA に変更したことで、輸送費が追加となった。

実施地の様子



ングマ市場

実施の様子



汚水槽の掘削



公衆衛生と水に関する啓発活動

実施後の様子



完成したピットラトリン



完成した手洗い場

以上